



Thank you



## 医療の現場アラカルト - Vol.1

## 中国語担当 尾添さん

医療の現場、と聞くと、まず思い出されるのが「お名前の確認」です。診察室に入る時、検査や会計の場面、どんな時でも「（ご本人から）お名前をお願いします」と言われます。患者さんの取り違えを防ぐための大切なひと言ですが、医療通訳に携わるようになって、外国の方のお名前をどう確認したらいいか時々考えさせられることがあります。

中国語の発音におけるミニ知識なのですが、漢字を読む時、中国語の発音は日本語の音読みとよく似ていて、逆に訓読みではまったく異なることが多いです。例えば私の名前「尾添」は「尾」も「添える」も訓読みなので、中国語の発音は「ウェイティエン」となって「オソエ」とは似ても似つかぬ音になります。例えば「安藤」ならどちらも音読みなので、中国語では「アントン」≠「アンドウ」ですね。



同じ漢字を使う国同士でもなかなか発音の壁を越えられないのに、まして表記する文字から異なる国の方のお名前確認は、本当に難しいと思います。通訳で呼びかける時も、王さんは「オウさん」か、はたまた「ワンさん」か悩むところではありますが、私は中国語の発音に忠実に心がけています。表記する時には、カタカナで書かざるを得ないジレンマもあるでしょうが、せめて声に出して呼ぶ時は本来のお名前です、と思うからです。

中国には表札はありません。  
これは木彫りの装飾品で、北京で名前を彫ってもらい  
日本の我が家で表札として使っています



## 「美食大国ペルー」



「ワールド・トラベル・アワーズ (WTA)」は、旅行業界のアカデミー賞として知られています。通訳センターには何人かペルーの出身者がいますが、ペルーはこのWTAの「World's Leading Culinary Destination (世界で最も美食を楽しめる国)」部門で11度の最優秀賞に輝いている美食大国だそうです。

帰国するたび、食べ物がおいしすぎて必ずと言っていいほど逆流性食道炎になる、と笑って話してくれた通訳者からのご紹介ですが、最近日本でも輸入食料品を扱う店で、ペルーの家庭料理を簡単に楽しめる調味料が手に入ります。ロモサルタード(ペルー風肉炒めの素)やアヒ・デ・ガジーナ(ペルーのチキンカレーの素)などです。本格的なお味に仕上がるそうなので、興味のある方はぜひ試してみてください！

2020年8月に発刊しました「Medi-Way医療通訳だより」も今回で50号を迎えました。今後とも、ちょっと一息としてご愛読いただけましたら幸いです。

## 今月のピックアップ



## 各国いろいろ「教師の日」

「教師の日」をご存知ですか？ユネスコの定めた「世界教師デー (World Teacher's Day)」は10月5日。ところが、この日にち、聞けば聞けば各国バラバラなんです。

中国では9月10日。留学した時、新学期が始まって間もない頃に「10日は教師の日だから半日お休み」と言われてへーッと驚きましたが、みんなと一緒に感謝を伝えるカードやお花を贈ったりしました。台湾では9月28日、なぜなら孔子の誕生日だからだそうです。

アルゼンチンは9月11日、但しそれは小学校の話で、中学生になったら9月21日「学生の日」をお祝いします。ブラジルは10月15日。この日にちの制定にはその国の教育の父と呼ばれる偉人や皇帝などが関係しているようです。

ベトナムでは教育者に対する尊敬の念が強く、11月20日の「教師の日」はさまざまなイベントが行われます。日にちが各国でバラバラなのは面白いですが、教育に携わる人に感謝しようという気持ちは同じでしょう。日本であまりこの日が一般的になっていないのは、学校の先生=聖職のイメージがあって、先生に贈り物をする習慣がなかったからではないかと推察しますが、子どもたちが「先生、ありがとう！」の気持ちを伝える日があってもいいように思いますね。

